

～ゼロから始めたアサリ漁場の造成と干潟の保全～

浜中地区干潟保全活動組織

地域概要

浜中町は北海道東部に位置する水産業と酪農が基幹産業の町である。厚岸霧多布昆布森国定公園の一部地域で、背後には霧多布湿原を有している。近年は霧多布(きりたっぷ)岬付近海域などにラッコが生息し新たな観光資源となっている。

主要な漁業はコンブやウニ(養殖・潜水)、タコが上位3漁業で、タラ、イワシ、ホッキガイ、カニ類などの漁業も盛んである。また、コンブ漁を営む漁業者は、他の漁業種類を兼業している方が多くおり、そのうち干潟で育まれるアサリは春時期の重要漁業となっている。

当組織が保全活動を行う干潟は、下図に示す霧多布港内(港湾)の一部と暮帰別の半閉鎖性の汽水域にあり、平成25年より漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業(前・水産多面的機能発揮対策事業含む)を活用して、その干潟の管理・保全に努めている。

活動の背景

当組織が活動を行う干潟は、港湾の改修や防波堤の設置などにより、静穏域が造られ砂が溜まり干潟が形成された。干潟が形成された当初は、アサリ等の生物の生息は認められていなかった。そこで、当干潟の有効活用を進めるため、北海道・浜中町の協力支援を受け、平成2年に近隣海域のアサリを移植し、干潟の生産力の促進を図り、現在に至っている。

当組織では、これまでに干潟の保全活動として耕耘や覆砂など底質の改善を様々な方法により実施してきた。また、新たな問題として、一部の干潟でアサリ稚貝の過密化が生じたり、アサリを含む二枚貝の死殻の堆積が干潟上で多く見られたりしており、これらの対策が求められるようになった。

活動方針

当組織では、干潟の底質改善を主な目的として、活動当初から耕耘活動を中心に取組を展開し、一定の成果を上げてきた。しかし、取組を進



める中で、前述したアサリ稚貝の過密化による生残・成長への悪影響、死殻の大量堆積による底質の悪化が懸念されるようになった。

そこで、アサリ稚貝の密度管理を活動項目に追加し、耕耘活動から死殻の除去活動に取組を変更するなど、順応的に活動方針を変え、対策を図ることにした。

活動実績

当組織では、現在、死殻の除去活動、稚貝の密度管理、そしてモニタリングを行っている。

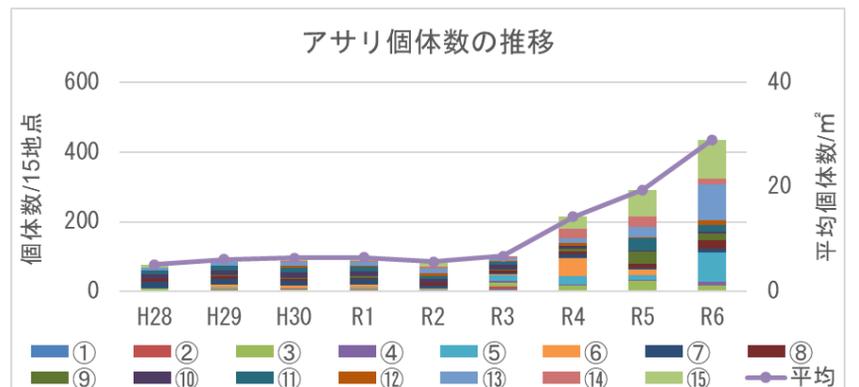
死殻の除去は、手作業で行っており、1回(日)の作業で8~10窠以上の死殻を除去している。

稚貝の密度管理は一部海域においてアサリ稚貝が過密となり、一定のサイズ以上になるとその環境の収容力を超えアサリの成長が阻害され、漁獲サイズにならない個体が多く確認されるようになる。そのため、過密な干潟から稚貝を間引き、低密度の干潟に移植する取組を実施している。移植は年間7回程度実施しており、例年およそ1.5トンのアサリを移植している。



活動の成果と課題

モニタリング地点におけるアサリ個体数は、平成25年から令和3年までは低位で安定した推移を示していたが、令和4年以降、増加に転じている。死殻の除去活動を令和3年から開始したことから、その効果が期待される場所であるが、その関係性は現時点において不明である。



現在、当組織では漁業者の高齢化への対策が、大きな課題となっている。当組織の活動は、現在全ての取組が人力で行われているため、今後の活動継続には不安がある。

これまで保全活動を効率的かつ効果的に進めるために、試行錯誤を繰り返してきた。今後の活動においては、人員が減少する可能性もあることから、現在試験中の新たな耕耘手法も含め、少数でも干潟の保全及びアサリ資源の維持・増大を図れる技術開発などを水産指導機関と検討し、取組を進めていきたいと考える。